

2023 年度 個人研究実績・成果報告書

2024 年 4 月 18 日

所属	商経学部	職名	教授	氏 名	中村 晃
研究課題	自己愛に関する心理学的研究				
研究キーワード	自己愛・承認欲求・インテグラル理論	当年度計画に対する達成度	3.概ね順調に研究が進展し、一定の成果を達成したが、一部に遅れ等が発生した		
関連するSDGs項目	4. 質の高い教育をみんなに	該当なし	該当なし	該当なし	

1. 研究成果の概要

本研究では、まず自己愛や承認欲求に関する文献調査、および自己アピールや自己呈示に関する文献調査を行った。特に、インテグラル理論が本研究にとって有用な理論的枠組みの一つとすることが示されたため、自己愛と承認欲求についてインテグラル理論を用いて検討を行った。

不健康な自己愛とは「他者からの評価に対する執着」でとらえることができるが、これは承認欲求と関係が深いことが考えられる。しかし、これまでこの承認欲求と自己愛との関連については明らかになっていない。これに関して、Wilber のインテグラル理論では、人間の意識は利己的段階、自集団中心的段階、合理性段階、相対主義型段階と発達していくことが示され、さらに Gardner は、人間の発達とは自己中心性が減少していくことと考えられると述べ、自己愛の減少と意識の拡大のプロセスとして発達を捉えている。つまり、発達に従って自己愛が変化し、それに伴い承認欲求の対象や強さが異なる可能性が検討された。そのため、承認欲求と不健康な自己愛との関連、およびその不健康な自己愛の克服過程を、インテグラル理論から検討をすすめていく意義が見いだされた。

本研究では、Wilber の発達段階と自己愛・承認欲求の関係性について、文献研究を基に分析を行った。分析の結果、利己的段階と自集団中心的段階における自己愛・承認欲求の特徴が検討された。

まず、利己的段階では、他者の立場に立てないため、常に自分が注目されることを求めるといった、自分が認められ賞賛されることに強い執着を示すような承認欲求がみられることが示唆された。また自分の利益や欲求を最優先し、周囲の人を道具として利用するような、自己中心的な自己愛がみられることが示された。

一方、自集団中心的段階では、自分の所属する集団が唯一正しいと考え、他の集団を排除しようとする傾向といった、排他的な承認欲求がみられことが示された。また、自分のアイデンティティが自分自身だけでなく、所属する集団にも拡張され、自分の所属する集団を優位に立たせ、他の集団の文化や価値観を否定するなど、自分のみならず自集団に対する自己愛がみられることが示された。

このように、Wilber の発達段階は、自己愛・承認欲求の質を理解する上で有用なフレームワークを提供することが示された。今後の課題としては、それぞれの段階における自己愛・承認欲求の具体的なメカニズムや健全な自己愛・承認欲求を育むための方法、自己愛・承認欲求と社会問題の関係性を検討することが必要と考えられる。

2. 著書・論文・学会発表等（査読の有無及び海外研究機関等の研究者との国際共著論文がある場合は必ず記載）

【論文（査読あり）】

特になし

【著書・論文（査読なし）】

特になし

【学会発表等】

特になし

3. 主な経費

研究のための書籍の購入、データの処理をするためのパソコン

4. その他の特筆すべき事項（表彰、研究資金の受入状況等）

特になし

（本文は2ページ以内にまとめること）